

Title	米国工業管見
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.1 (1909. 2) ,p.111- 123
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090201-0104

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

本政府藥籠中のものなりとなすが如きに至りては固より外人特有の臆説にして一笑の値をも有せざるものなり。

雜錄

米國工業管見

高橋誠一郎

現代の北米合衆國は之れを農業國と稱するよりは寧ろ工業國を以て目するを當れりとなす。素より農業は猶ほ聯邦各州經濟的活動の有力なる部分を占め、國內最多數の人民は衣食を此に求め、就中輸出貿易の約三分の二を供給し同國外國貿易を指導するの地位に在り。然れども工業は目今農業に比して資本の用途を供することより大にして、且つより高價なる價值生産を行ひつゝあり、最近に至るまで新世界の競争の爲めに脅さるゝの機會多かりしものは舊世界の製造工業者よりも寧ろ農業家なりしが、今日に於ては已に此事なく、將來に向ては益々其然るを見る可きなり。

諸種の生産物を概括して論ずる時は吾人は米國農業の競争は既に其局限に到達せりと斷言して憚

らざるなり。豊饒なる未耕作地は漸次稀少となりつゝあり、而して其一方に於て人口は迅速に増加の勢を繼續し、益々都市的の性質を帯び來りつゝ、あれば、農産物の價格低落を來し且つ其生産の消費に比して急速に増加するが如きことは其必無を保することを得可し。従つて輸出せらる可き餘剩額は此後に於て殆ど増加することあらざる可し。(以上は勿論概括して論斷を下せるものにして、即ち同國輸出貿易中の重要品たる小麦綿花並に肉類が將來に於て昔日に比し遙に遅緩なる進歩を示す可きの徴あるよりして謂へるなり。近年の發達に係る二三の商品、即ち最近に至りて多量の輸出を見るに至れる石油殊に綿花油、合衆國海外の新領地より生産せらるゝ砂糖、南部諸州に於て廣く耕作を初めたる米並に其他數種第二位に屬する貨物は如上の論斷に對し例外たる可きものなり)。洵に米國現今の外國貿易を以て二十年前のそれに比するに(特種の事情の爲めに生じたる異同を避けんが爲め一ヶ年の統計に據ることをなさず一千八

百八十年より同二年に至る三ヶ年間に以て一千九百年より同二年に至る三ヶ年間の平均に比較することとせり。全輸出額は一四、〇〇〇、〇〇〇弗より一、三九六、〇〇〇、〇〇〇弗に達し七割二分の増加を示せるに對し、農産物の輸出は僅に六五六、〇〇〇、〇〇〇弗より八七七、〇〇〇、〇〇〇弗に昇りしに過ぎず、即ち三割四分の増額に止まりしなり。之に反し製造品の輸出額は一一七、〇〇〇、〇〇〇弗より四一六、〇〇〇、〇〇〇弗に達し二十五割の増加を見たり。此に由つて米國工業の増加力は同國農業のそれに比し遙に卓越せるを見る可きなり。

合衆國工業の發達は固より歐洲の先進國たる英佛獨に比し遙に近代のことに屬するなり。亞米利加に於ける諸植民地が未だ母國の羈絆を脱するを得ざりし時代に在りては彼の「マーカンチール、システム」の禁令は工業的企業の發達を沮害せり。而して獨立を得たる後と雖も新興國の常として資本少く市場は局限せられて僅に不確定の販路を

有するに過ぎず、加之末耕作地の開拓、森林の收益及び人力を加へざる天産物の蓄藏は少小の支出を以て多大の収益を得るの見込充分なれば自然、人は巨額の資本を投じて製造工業を設立することを爲さず、従つて久しく農業は絶對的優越の地位を占め工業は第二位に置かれたりき。「報告書」に據るに「恐らく一千八百五十年の交に至るまでは米國內の一般製造業の大半は賃銀労働者を使役し動力の助を借りて行はる、今日の工場組織と全然相異なる家内工業にして徒弟を使雇する一家族又は個人企業者の手になるものなりしなり」。

然れども這回の記述は敢て或種工業の大企業集中が一千八百五十年前に於て起ることなかりしを示すものにあらず。此運動は「報告書」に據るに米英兩國間の諸關係を斷絶せしめたる彼の一千八百十二年の戦争に其原を發するなり。殊に其迅速なりしものは織物業なり。一千八百二十三年に於てローウエルは今日マツサチューセツツ州をして第二のランカスシャーたらしめたる純然たる工業市

の魁として現れたり。然れども其當時に於てはマツサチューセツツは未だ眞の勞働階級の住民を有せざりき。ローウエル市發祥の後約十年にして同市を訪へる佛國の經濟學者シヘール、シヅアルエーは其「北米便り」中に此工業的サレンタムの殆ど牧歌的なる記述を試み大工場と軒を列べて設備整へる職工寄宿舎の立てるあり、有徳なる老婦人の監督の下に近隣の農家の女子より成る若き女工が此に宿泊しつゝあることを語り。工女等は恐らく數年間の工場勞働に若干の貯蓄を得て、應て再び田園に歸るなる可し。

之れ實に工場制度發達の第一階段にして、吾人が今日吾が日本及び露國に於て見る所のものと異らず、而して十八世紀最後の二十五年に於て英國の経過し來りたる所なり。即ち同國に在りては一定の年月を限つて田舎より募集せらるゝ使雇人の爲めに必ず工場に附屬して寄宿舎の設けありしなり。

然れどもシヅアルエーが訪れし後六十年にして

再びローウエルを訪ふものは彼が記述したる家屋は其根柢をも止めざるを見る可きなり。米國工業發達の第一階段は久しき以前に於て経過せられたるなり。一千八百三十年より同五十年に至るの間工場制度は急速なる發達を爲せり。一千八百三十年には三四〇、〇〇〇紡績を算せるに過ぎざりしマツサチューセツツ州は一千八百五十年には一、二八八、〇〇〇紡績を示すに至れり。而して一千八百六十年には更に一、六八八、〇〇〇紡績に増加せり。加之一千八百五十年より同六十年に亘る十年間に於て製鐵、製銅、製革其他諸種の會社は陸續として創設せられたり。有名なる英國の統計學者マルホール氏に據れば合衆國內に於て製造せらるゝ貨物の總額は一千八百二十年には二六八、〇〇〇、〇〇〇、弗なりしが一千八百四十年には四六七、〇〇〇、〇〇〇弗に進み、更に一千八百六十年には一躍して一、九〇七、〇〇〇、〇〇〇弗に達し、佛獨二國の製造品總額と正に伯仲の間に在り、唯だ僅に英國のそれに比して及ばざること遠きのみ

なり。
 一千八百六十年以降に於ても米國工業は亦異常なる發達を示せり。各國勢調査に於ける工業の地位に概括し極めて明瞭に其異常なる殆ど奇蹟的發達の迹を示さんと欲せば「報告書」中より左掲の計表を拔萃するに勝るものなし。

一八六〇年、一八八〇年、一八九〇年並に一千九百年に於ける米國工業の一般統計
 (表中の各價格は總て百萬弗を單位とす)

企業總數	一八六〇年	一八八〇年	一八九〇年	一九〇〇年
資本額	二四〇、四三三	二五三、八五二	三五五、四二五	五二二、三三九
有給役員書記其外	一、〇一〇	二、七九〇	六、五五五	九、八三五
給料額	四六一、〇〇九	三九七、一七四
勞働者平均數	一、三二一、二四六	二、七三三、五九五	四、四五二、六三三	五、三三五、八〇二
總賃銀額	九四八	一、八九一	二、三三九
十六歳以上の男工	一、〇四〇、三四九	二、〇一九、〇三五	三、三三七、〇四二	四、二二六、六〇〇
賃銀額	一、六五九	二、〇一一
十六歳以上の女工	二七〇、八七七	八〇三、六八六	一、〇三二、六〇九
賃銀額	二二五	二〇二
十六歳以下の少年工	二二〇、八八五	一六八、五五三
賃銀額	一七	二六
儲雜費	六三一	一、〇二八

使用材料費.....一、〇三三
 生産額(注文及修繕を含む).....一、八八六

三、三九七
 五、一六二
 七、三四八
 五、三七二
 九、三三二
 一三、〇〇四

上掲の計表を一瞥するものは直ちに米國工業が前世紀の後半に於て、過去二十年間に於て、更に過去十年間に於ても如何に偉大なる發達をなせるかを知るに足らん。殊に同國の進歩を以て他國工業のそれと比較對照する時は益々其の稱揚す可きものなることを知らん。過去十年間に於て孰れの諸國も合衆國の如く其國勢に關して充分なる調査を行はず從つて斯の如く詳細にして且つ正確に近き統計を得ること能はずと雖も、然も歐洲に於ける工業の發達は米國に比して極めて遅緩なりしは疑ふ可らず。上記のマルホールは製造品の總價格を計量せんと試みしが其談る所に從へば一千八百六十年より同九十四年に至る期間に於て大英國は僅に二、八〇八、〇〇〇、〇〇〇弗より四、二六三、〇〇〇、〇〇〇弗に達し、佛國の如きは單に二、〇九二、〇〇〇、〇〇〇弗より二、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗に昇りたるに過ぎず、獨逸と雖も僅に一、九

九五、〇〇〇、〇〇〇弗より三、三五七、〇〇〇、〇〇〇弗に達したるのみなるに、獨り合衆國は一、九〇七、〇〇〇、〇〇〇弗より九、四九八、〇〇〇、〇〇〇弗に上昇せるを見るなり。
 以上マルホールの掲げたる數字中米國のみを取りて之れを驗するに正しく一千八百九十年の國勢調査と同一にして一千八百九十四年の米國製造品の價格は一千八百九十年の生産高に比して増大すること少なきは、全く一千八百九十三年の初期より襲來せる工業上の恐慌の結果にして生産著しく減少し其代價亦激甚なる低落を來したるに依るなり。
 固よりマルホール並に各國勢調査の掲げたる數字を採用するに當り吾人の方に指示す可き點及び「報告書」自ら注記せる所の考量を費さざる可らずと雖も、然も今日の合衆國は正に農業國として第一流に位すると等しく、工業國としても亦第一流

の地歩を占めつゝあることは疑ふ可らず、而して一千八百六十年以後獨逸の工業品は僅に其價格を倍加し、英國の五割の増加、佛國は更に其割合少きに反し、米國の工業の生産力は其生産物の價格に據つて見るに五倍の増加を爲せりと云ふも敢て過言にあらざる可し。

吾人は上に引證せる統計中二三考量を要する點あることを云へり。即ち茲に其一例を擧ぐれば一千九百年に合衆國內に於て製造せられたる貨物の價格、一三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗中には數多の重複計量を含むこと是れなり。「報告書」は流石に此事實を觀過することなくして曰く「近世工業の發達に伴ふて或る製造業の既製品は絶えず他の諸製造業の原料として使用せらるゝものなれば一貨物は往々にして再三再四計量せられ斯くて生産物の總價格を増大せしむるなり。即ち綿花業に於て見るに、製絲業の既製品として販賣せらるゝ綿絲は製布業の原料たるものにして、而して又製布業の既製品たる綿布は他方に於て衣服業の原料た

るものなれば、結局總計中には綿絲の價格は三度、綿布の價格は再度計上せらるゝこととなるなり。「報告書」は更に此の事實を具體的に説明して曰く「製絲機に於て製造せられたる綿絲の價格一〇、〇〇〇弗と假定せんに製布機にて製造せらるゝ綿布の價格は(内綿絲の價格一〇、〇〇〇弗を含む)一五、〇〇〇弗なり、而して衣服工場に於て製造せらるゝ衣服の價格は(内綿布の價格一五、〇〇〇弗を含む)二〇、〇〇〇弗となり、三企業の生産額は四五、〇〇〇弗となるなり。然れども此種生産物の眞の價格は四五、〇〇〇弗にあらざりして僅に二〇、〇〇〇弗に過ぎざる可し、而して若し以上製絲、製布並に衣服製造の三業が同一企業内に行はれたらんには何人も之れを二〇、〇〇〇弗として計上するを過たざるべし」と。

果して然らば吾人は如何にして製造品の眞價を計量することを得可きか。一千八百七十年、一千八百八十年並に一千八百九十年の國勢調査に於ては製造品の價格中より之れに使用せられたる原料

の價格(一千八百九十年には其價格四、二一〇、〇〇〇、〇〇〇を算せり)を控除して比較的正確に近きものを得んと企てたり。一千八百九十年の報告書は此れ一名けて生産純額と呼べり。然れども此計算方法に従へば一千九百年の「報告書」が指摘せるが如く生産物の價格が反つて原料品の價格よりも減少せるの不可思議を示し統計の妄誕其極に達せり。

洵に製造品の價格中より其製造に使用せられたる全原料の價格を控除して得たる額は單に製造の經過に由て此等の原料品に添加せられたる價格を表示するに過ぎざるなり。眞の純價格を得んとせば此の殘額に原料にして若し初めて工場に提供せられたるものなる時は其價格をも加算することを要するなり。其目的を遂行せんが爲めに一千九百年の國勢調査の項目中には原料品を二部門に分ち(一)を粗製品のまゝにて購入したる原料品(例へば綿花、羊毛、生絲、穀類、家畜、地鐵等の如きもの)、並に(二)半製品の狀態にて購入せられた

る原料品(例へば銑鐵、鋼鐵、材木、麵粉、織布等の如きもの)となせり。而して第二部門に屬する原料費は之れを純然たる粗製の狀態に部分的加工をなしたる他の企業の項目中に其生産物の價格として計上せり。故に此原料費全額は年産額總價格に於ける重複計量の額を表すものなり。米國製造工業に使用せられたる半製品の價格は一千九百年に於て四、六三四、〇〇〇、〇〇〇弗に達せり。生産純額は即ち此の價格を總額一三、〇〇四、〇〇〇、〇〇〇弗より控除して之れを得可し。斯くして得たる純産額は實に八、三七〇、〇〇〇、〇〇〇弗なり。

以上「報告書」を基礎として米國工業の純産額に關して比較的乾燥なる計算を重ね來りし所以のもの、一は以て此種の統計を引用するに當り如何なる注意を拂ふ可きやを示し、他は以てマルホールの主要なる歐洲諸國の産額計算に對し總額に代ゆるに純額を以て比較對照するの利益多かる可きを知ればなり。然れども假令茲に米國の生産額を

八、三七〇、〇〇〇、〇〇〇弗に減じ、更にマルホー
 ルの所言を容れて合衆國の保護關稅は其製造品の
 價格を三割三分方人工的に増加せしめたりとする
 も（吾人を以て見るに此言は少しく誇張に失せる
 なる可し、然も尙ほ之れを是認するも製造品の眞
 價は六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗の上にある可
 し）、合衆國は依然として優に世界工業國中の第一
 位を降らざる可なり。何となれば一千八百九
 十四年より一千九百年に至る期間に於て英國の贏
 ち得たる進歩の跡は極めて遅々たるものにして、
 獨逸の如きは同期間に於て著しく其生産を増大し
 たりと稱せらるれども然も未だ二倍の増加を見る
 こと遠く、其生産額が四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗
 を超過したりと主張するものあらばそは餘りに樂
 觀に失するものと謂はざる可らず。而して佛國に
 至つては其工業の進歩毫も言ふに足るものなきは
 何人も知悉せるの事實なり。加之佛國並に獨逸に
 於ては等しく保護關稅を以て高價格を繼續しつゝ、
 あるの事實を記憶せざる可らず。

由此觀之合衆國が工業上に贏ち得る優越なる
 地位は何人も之れを疑ふこと能はざる所にして、
 而して其地位たる主として一千八百八十年より一
 千九百年に至る中道に於て贏ち得たる所のものな
 ること亦論なきなり。然れども茲に奇とす可きは
 製造工業に従事する人民の割合は英獨佛三國に於
 て等しく之れに與る人民の割合に比して甚だしく
 小なること是れなり。合衆國に於ては工業に投ぜ
 らるゝ資本は農業に比し遙に多額にして且つ製造
 工業品の價格は農産物のそれに比し遙に大なりと
 雖も（農産物は僅に四、七四〇、〇〇〇、〇〇〇弗に
 過ぎず、而して純價格は三、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇
 弗以下に在り）、然も反つて農業に糊口の資を保つ
 る計表は最近の三國勢調査に基き職業に従つて米
 國民の分布を示したるものにして本研究に對して
 資する所なしとせず。

十年以上有酬職業に従事したる人口
 每 千 單位

	一八八〇年	一八九〇年	一九〇〇年
農 業	七、七四	八、五六一	一〇、三三二
自由職業	六〇三	九四四	一、二五九
家内便雇人	三、四四	四、三三	五、五八一
商業及運輸業	一、八六	三、三三六	四、七六七
製造業	三、七五	五、六七八	七、〇八六
合計	一七、三三三	二二、七六六	二九、〇七四
百分比例			
一八八〇年	一八九〇年	一九〇〇年	
農 業	四四、三	三七、七	三五、七
自由職業	三、五	四、一	四、三
家内便雇人	一九、七	一八、六	一九、二
商業及運輸業	一〇、七	一四、六	一六、四
製造業	二二、八	二五、〇	二四、四
合計	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇

之に反し英國に於ては一千九百〇一年の國勢調
 査に従へば製造業に従事する者九百萬、商業百

六十八萬人而して農業は二百四十六萬人なり。即
 ち相對的にも絶對的にも工業に従事する英國民の
 數は合衆國內の斯業に従事するものに比して著し
 く大なり、而も英國の製造する貨物の價格は米國
 のそれに比し半額を越ゆること多からざるなり。
 尤も、更に仔細に統計を驗する時は大多數の人民
 が従事する所の運輸業が米國の報告にては商業中
 に含まるゝに對し英國にては之を工業中に分類せ
 らるゝことを發見すべし。然れども英國諸島内に
 於て斯業に従事するもの、數は之よりも七倍乃至
 八倍の鐵道を有する米國に比して遙に小なる可き
 は毫も疑なき所にして、之を工業従事者數より減
 ずるも尙ほ依然として大英國内の工業従事者は新
 世界の共和國に比して遙に超過せるを見る可き
 なり。

尙ほ上述の如く訂正したる後と雖も英米二國の
 統計は其國勢調査項目中に於ける他の種々なる相
 違の爲めに之を嚴密に比較すること能はざれど
 も、吾人は茲に米國の勞働者は概して英國勞働者

に比して其作業生産的なりと歸結するに躊躇せず、而して單に英國のみに止らず恐らくは世界各國孰れの労働者に對しても卓越せる生産力を有するものならんと思惟するの一層確然たる理由を有するなり。此點に關し注意すべきは上來引用したる最後の數國勢調査に由る統計に依るに合衆國內に使役せらるゝ女工及び少年工の數は他國に比して割合に少なること是なり。此事實は如何なる見地よりするも祝福す可き状態にして、疑もなく物質的に其生産力の割合を増加するに資すること大なり。然れども米國と他國との差違は單に労働者中に成年男工を含むこと多きの一理由にのみ歸結せんには餘りに其大なるを見るなり。即ち之れ全く米國労働者の他に比して著しく出精勉勵すると、諸般の機械よりして有力なる助を借ること、若しくは以上二事實の結合して作用するの結果なりとして初めて解決することを得可きものなり。最後に論ぜざる可らざるものは米國民をして克く這般の驚く可き急速なる進歩を成さしめたる原

因如何の問題なり。之れ實に「報告書」自ら提供したる所の問題にして、茲に同書に従つて米國民が自ら其工業發達の原因なりと思惟する所のものを研究するは最も興味ある事業たるなり。即ち彼等は五個の原因を擧げて之れに答へたり。農業上の富源、鑛業上の富源、完備せる運輸交通の機關、各州及び其附屬地間の交易の自由并に因襲固陋なる思想の爲めに囚はるゝことなきこと是なり。

以上五要素中の最初の二は専ら地質及び氣候の賜にして、其の工業促進に與つて力あること素より論なし。合衆國は熱帶を除くの外殆ど所有ゆる地味氣候を有せり。而して同國極南部の各州に於ける氣候は少くとも準熱帶的と稱するを得べければ熱帶の産物と雖も全然之れを有せざるにわらず。従つて製造業に資す可き食料并に農業上の産物大に諸原料品の供給は極めて容易に且つ廉價に之れを得るの便益あり。例へば最重要なる織物業の原料たる彼の綿花は世界全産額の五分の四を米國の生産に俟てり。加之下層土の富饒なる鑛物原

料の供給亦前者に劣らず。近世工業の樞石たる石炭の産額は世界の全産額七二〇、〇〇〇、〇〇〇噸中二三〇、〇〇〇、〇〇〇噸を占め（一千八百九十九年）優に世界市場を左右し得るの地位に在り。鐵鑛并に銅も亦豊かにして前者は全産額七九、〇〇〇、〇〇〇噸中二五〇、〇〇〇、〇〇〇噸を、後者は四七〇、〇〇〇噸中二五七、〇〇〇噸を供給しつゝあり。比較的重要ならざる鑛物に關しても豊富にして亞鉛は獨逸に次ぎて世界第二位に在り、鉛に至つては優に世界に冠たるなり。普通の鑛物中獨り錫のみは各文明國と等しく（英國を除く）甚だ稀少なり。白銅は其領域外なりと雖も直ちに境を接して相隣れる加奈太よりして充分なる供給を仰ぐを得可し。石油は露國と其世界全産額を二分して其一半を占め、漸次に其聲價を高めつゝあり。若し夫れ有望なる將來を有する新鑛物アルミニウム、石膏、粘土層は佛國と共に之を所有し、其の製造は合衆國が他に率先して着手したる所のものなり。

斯くの如きものは即ち米國が天然に負ふ所の利益なり。如上の天恵殊に鑛産物の富有なることが如何に工業の發達に貢獻すること大なるかは殆ど之れを言説すること能はざる程にて、彼の佛國の工業が微々として振はざるは全く鑛物の缺乏に依ること多く、他方に於て富有なる鑛坑は英獨の工業を發達せしめたる所以なることを知らば蓋し思半ばに過ぐるものあらん。然れども英獨二國と雖も此點に關しては米國に比して遙に遜色あり。恐らく今世紀に於ては彼の水力の應用は多少佛國工業の缺點を補ふ所ある可し。即ち佛國は水力の供給に關しては獨逸に比して天恵厚く、而して英國の如きは全く之れを有せずと謂ふも可なり。然れども米國は水力に關しても世界に冠絶し、幾多のアルプス山中の懸河を合するも一のナイアガラに及ばざるなり。其他ロッキーマウンテンに於てもアレガニース山脈に於ても幾多の瀑布は轆轤として其利用せらるゝを待つものゝ如し。洵に大自然は米國工業發達の前途に一の障害をも置くことなきな

り。

天然は常に米國に農業上并に鑛業上の富源を賦與したるに止らず、更に運輸交通の方面に於ても亦高貴なる賦與を與ふるに吝かならざりき。米國內の一萬八千哩に亙る舟航し得可き河流は直接には輸達の便を與へ間接には鐵道を驅つて運賃を低落せしめ以て汽船船舶の競争に供へしむるの効あるなり。殊に米國內の幾多の大湖は海に向つて通路なきの缺點あるも然も内國の運輸交通には無上の便益を與へ一方は豊饒なる銅鐵坑并に鬱乎たる深林より他方は廣大無邊なる炭層に通じて絶好なる水路を供せり。今日此等諸大湖上の平均運賃率は一噸哩に付き僅に十分の六「シム」に過ぎず、而して毎年ソー、サン、マリ運河を通過する船舶の數は蘇士運河の五倍以上に昇れり。鐵道の敷設亦容易なる事業にして、米國人は其組織に獨特の妙腕を有すると共に其經營にも亦一種の特技を有し、漸次運賃低減に成功して今日に於ては平均一噸哩六「シム」となれり。之れ實に歐洲の如何なる

國と雖も未だ曾て實現し得ざりし所にして、米國自身に於ても之れを三十年以前に比して其三分の一に減少したるを見るなり。

熱心なる保護論者より成る米國民にして國內交易の自由より享得する利益を喋々するを聞くは頗る趣味あることに屬するなり。洵に合衆國各州は世界に於て絶對的取引の自由を有する最も廣大なる地域を形成するものにして、前國務卿ブレインが其著「議會に於ける二十年間」中に記して「合衆國が斯く世界に類例なき發達を爲し巨大なる國富を蓄積し得たるは全く自由貿易と保護政策とを同時に併用したるの賜なり」と謂へるが如く、國內の廣大なる市場と急速なる人口の増加とは幸にして必然保護政策に伴ふ可き危険、就中自由競争の杜絶及び販路を得るの困難より結果し來る諸般の障害より米國工業を救ふことを得せしめたるなり。

最後に合衆國は其工業制度を全く空白なる基礎の上に建設するを得たるに因りて利する所多かり

しは何人も拒むこと能はざる事實なり。歐洲に於ては古代數世代の間幾多の傳説習慣を繼承し來りし職工團體、所謂職業組合は殆ど本能的衝動的に器械の使用に反抗し、甚しきは今日に至つても一部賃銀労働者が絶えず新器械の使用に對して反對しつゝ、あるを見るなり。斯くの如きは何人も皆須臾も變轉止むことなき四圍の状態の間に活き、一事業より他に移るに慣れたる米國に在りては殆ど之れを見ること能はざりしなり。遠く故郷を去つて新大陸に新運命を賭するの勇氣ある男子は固より進歩改革を懼る可きの理あらざりしなり。茲に即ち一國民の大を致さしむるに最も與つて力ある人格的條件は作用して天恵の物質的資料は初めて其運用を見るなり。半ば米國民は舊世界の産せる最も堅忍なる人民よりして形成せられたる故を以て、半ばは其四圍の結果として特に勢力的、企業的、進歩的にして同時に機械を發明し之れを利用する才能を有せり。之れ實に米國民が其異常なる土地的富源と相俟つて偉大なる成功を贏ち得たる

人格的特質にして、今日の奇蹟に近き進歩發達を解くの鍵たるなり。

空 想 の 心 理

小林 乳 木

如何なる心的状態が——空想——と云ふ語下に蔽はるべきであらう。普通の見解に従へば——空想は覺醒時に於ける現象の遊程——であると言ふのであるが、しかしながら催眠状態より生ずる再生形式も亦た恐らくは空想の範圍に屬すべきものであらう。

凡そ覺醒時と催眠状態とを問はず感官の受けたる外界刺激に對して或注意的活動を伴ふことは云ふまでもないが、フエヒネルはこの注意的活動を伴ふ利那の心的状態は睡眠時のそれと些の相違もない、言ひ換へればこの注意的活動以外の心的状態は正に眠つてゐると云つた。この説に依らんか、吾人の心的生活は睡——醒の兩境に跨つてゐるので、覺醒時に於てさへも眠れる局部を有するこ